



第七十四号

## UFOキャッチャーをやってみました

メルマガnoichi74号、今月は「UFOキャッチャーをやってみました」。

今月はお遊び企画です。

UFOキャッチャー、太鼓の達人、外国人観光客もわざわざ訪れる最近のゲームセンターは、本当に凄い！



七月に入り本格的な暑さとなった今日この頃。当メルマガも今月は夏休み気分といきたいところで本業を離れたテーマを熟考してみてもみたものの、暑さのせいか頭の冴えもなく、下らないことしか思い付かなかったのもう開き直って、今月のメルマガでは、思いつくがままの下らないことを実行してみることになりました。

九月に子供が生まれるということで、いわゆる「育メン」を目指して、子育てに必要なスキルを身に付けたい最近の私ですが、実は昨年、こんなことがありました。姪っ子と武蔵小金井のイトーヨーカドーを訪れた際、彼女が「アレが欲しい、コレが欲しい」とUFOキャッチャーに一時間近く張り付いて、リクエストに応えたい私が何度か挑戦してみたところ、ぜんぜん応えられず、カッコ悪い叔父になってしまったという思い出が。そんな訳で、ここは一つ、今後のためにもUFOキャッチャーのスキルを磨いてみようというのが今号の狙いで、実に馬鹿馬鹿しい企画ですが、さっそく渋谷のゲームセンターに行ってみました。

念のため補足をさせて頂くと、UFOキャッチャーとは、クレインゲームのことで、恐らく私が子供の頃にゲーム市場に参入してきたのではないかと思います。当初はデパートの最上階などにあり、お菓子や玩具などを掬いあげる子供向けのゲームでありました。やがて、ゲームの景品がぬいぐるみになるとUFOキャッチャーという名前が定着し、子供のみならず、大人までもが熱中するなど客層は拡大して、今日では幅広い年齢層に楽しませている娯楽ゲームとなっております。

それでは、UFOキャッチャー体験談のレポートをさせて頂きます。今回訪れたのは渋谷の某ゲームセンター。この日は取材前にお稽古があったので、浴衣姿はご愛嬌、ということ。眠らない街渋谷のゲーセンは、UFOキャッチャーだけでも二十台はあろうかという充実ぶり。なお、

私が見たい物を取るという自己満足ではサマにならないので、今回は夏休み中の正派音楽院生、砂金あやかさんに同行してもらい、彼女が一番欲しい物を取って差し上げることにしました。彼女の一番欲しかった物は、こちら。スヌーピー。大きさはだいたいスイカくらい。一プレイヤー百円、小手試しに一回やってみると、流石は巨大スヌーピー、ビクともせず。続いて二、三回試みるも、ほぼ動かず。これはきつと何らかのコツがあるに違いないと思い、早くも店員さん呼び、一回目のヘルプ。「これは従来のUFOキャッチャーのような掴んで持ち上げるタイプで



はなく、ズラして落とすタイプです」と店員。ズラして落とす。予想外のヒントを貰いました。そして何を思ったのか、店員が扉を開けてスヌーピーを手掴みし、スヌーピーが落とし易い位置に再セットしてくれるという、過剰サービスが行われました。嬉しいようで嬉しくないような感じもしましたが、ひとまず再スタート。それから十回くらい連続で試技するも、スヌーピーのお尻が数センチ動いただけで、頭の方は依然微動だにせず。むしろ、やればやるほど望ましくない方に動いていく感じもあって、堪らず二回目のヘルプを要求。例によって、店員が手掴みで劇的に状況を改善、「あとはトドメを刺すだけです」とみ

たいな状況にしてくれて、再スタート。私はよほどセンスがないのか、その後も苦戦が続いて十回くらい試技した頃に、我々一行は「押す」という新たなテクニクが効果的であることに気付きました。もはやUFOキャッチャーではなく、UFOプッシュャー？状態でしたが、その後も延々と続く店員の手掴みとプッシュャーの荒技コンビネーションで、とても自力では言い難い挑戦ではありましたが、なんとかスヌーピーを落とすことが出来ました。おおよそ三千五百円を浪費しました。ま、そんなことは別にどうでもよくて、思いがけず楽



しい時間を過ごすことができて、よかったです。以上の今月のメルマガnoichiでした。重ねて、下らない内容であることをお詫び申し上げます。

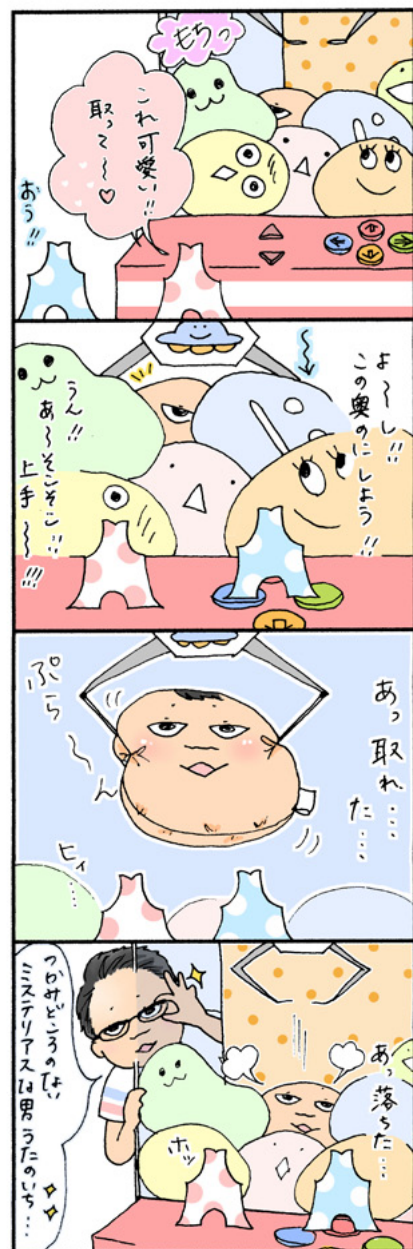


Illustration: morimoe

◎あとがき◎

高校生のころ、ちょうどインベーダーゲームが流行っていて、田舎の喫茶店にも黒いガラス張りの低いテーブルが並んでいた。今となつては信じられないかもしれないが、インベーダーゲームがあるような喫茶店は不良のたまり場だった。学校からも、そういう店には行くなどお達しがあつた。それでも、もちろん行く人は行くわけで、悪いことを始める連中がいるものだ。うちの高校を震撼とさせたのは「インベーダーゲーム百円偽造事件」。五円玉を何枚も重ねた外側にゼロテープを巻いて、百円玉と同じ直径にして、カッターで輪切りにするというなんともローテクな犯行。それでもお店にとっては迷惑な話で、ついには警察沙汰になった。休学処分になった生徒もいた。それから数年たつて、事件の話を先輩としていたら、時代はもつと進んでいた。ゲーム機のコインを入れるあたりで電子ライターをバチバチとやるとコインを入れなくてもゲームができたそうだ。何という頭のいい連中なんだろうと当時は思ったけれど、今からすると、どっちもどっちという印象だ。そもそも、インベーダーゲームがある店に行くとは不良だなんて、なんともおんきな時代だ。

グラフィックデザイナー (http://www.1938.jp) みやはらたかお

